

国語科

昨年度の取り組みと成果と課題

【 成果 】

- ・漢字や言葉の学習において、辞書の活用や朝学習での取り組みを通し、継続的に指導できたことでどの学年も目標値を上回ることができた。
- ・昨年度の校内研究の「自分の考えをもち伝え合う」言葉に立ち止まる授業の工夫により「要約する」が3学年とも目標値を上回っている。

【 課題 】

- ・漢字を書くこと、登場自分物の気持ちを捉える能力の向上を図る必要がある。漢字タイムや漢字検定を活用し、漢字を書く力を高めていく。日頃より、読書する習慣をつけるとともに物語の感想(1000字程度)を書く力を養えるよう繰り返し指導を行う。

大田区学習効果測定の結果分析 達成率（経年比較）

	令和6年度結果	令和5年度結果	令和4年度結果
第4学年	△	≡	▽
第5学年	≡	≡	△
第6学年	≡	≡	△

学習状況の分析

○知識・技能

- ・4、6年生は目標値を上回り、全国平均正答率に達している。5年生は目標値には1.4下回ったが全校平均に達している。漢字を書く力をつけるために、分からない言葉は辞書を引く習慣をつけ、文章を書く活動において学年に配当されている漢字を日常的に使っていくよう工夫を図る必要がある。

○思考・判断・表現

- ・どの学年も目標値と同程度または上回っている。物語・説明文において、文章のことばに着目して要約する活動を積み重ねた成果となった。今後も文の構成を理解し、初めて読む文章でも、要点を理解できるようにしていく。

○主体的に取り組む態度

- ・4年生は10以上目標値を上回っているが、5、6年生は目標値を下回っている。高学年になっても本に触れる機会を設定する必要がある。子供が自ら本を手取るような指導を考えていく。

授業改善のポイント（観点別）

【 低学年 】

○知識・技能

- ・朝学習の時間に、継続的に読書や漢字の学習に取り組む。
- ・みんなで声に出して読む楽しさを感じながら、音読する力を高める。
- ・「はじめ・中・おわり」の構成を意識し、書く事柄の順序を整理して書くように指導する。

○思考・判断・表現

- ・日記や感想文を書く時間を確保し、文と文のつながり方を考えられるように丁寧に指導する。
- ・時系列の順序や場面の様子、登場人物に注目しながら、大切な言葉や文を抜き出して読み、児童が自分の考えをもてるようにする。
- ・誤字、脱字に気付くことができるように、読み返す習慣を身に付けさせる。

○主体的に取り組む態度

- ・「音読劇」「登場人物に向けて手紙を書く」など、児童の実態に応じて言語活動を工夫する。
- ・読み聞かせボランティアを活用したり担任が読み聞かせを行ったりすることで、多くの本に触れる機会をもつ。

【 中学年 】

○知識・技能

- ・辞書を身近に置き、疑問点はすぐに自分で解決する習慣を身に付けられるよう指導する。
- ・「言葉のたからばこ」等を活用することで、気持ちを表す語句の量を増やし、語彙を豊かにする。

○思考・判断・表現

- ・授業の中で鍵になる問いをもてるように、あらかじめ教室に関連資料を置いておいたり、単元にかかわる実物や動画を見せたりすることで、児童が主体的に考える場面をつくる。
- ・多様な文種・構成の文章に触れるとともに、本文に関連する短い文章を読む時間を設定し、児童が自分の考えをまとめる場面をつくる。

○主体的に取り組む態度

- ・辞書をひき、新しく知った言葉を使って文を作る活動をするなど、言葉を知ることが楽しいと感じられるように授業計画を工夫する。
- ・各単元の最後に「この本、読もう」という関連する本を取り上げ、児童が興味関心をもてるようにする。また、朝学習を活用し、読む時間を確保する。

【 高学年 】

○知識・技能

- ・分からない語句が出てきたときには、すぐに辞書をひく習慣を身に付けられるよう指導する。
- ・短歌や俳句、慣用句や故事成語に親しめるよう日常的に指導する。

○思考・判断・表現

- ・資料を用いながら、自分の考えを効果的に伝える力を身に付けるためにICTを活用していく。
- ・目的や意図に応じて、情報を比較したり自分の経験と照らし合わせたりして、論理的に表現された文章を適切に読み、児童が自分の考えを広げられるようにする。また、各単元で身に付けた読み方を使って関連作品を読むなど、学んだ読み方を活用する場を設ける。

○主体的に取り組む態度

- ・「読書月間」などの行事や他教科と関連付けて、読書の時間を継続的に設定する。
- ・看板やパンフレット、新聞等の身の回りにある媒体を取り上げるなど、児童の興味関心の幅を広げられるよう授業計画を工夫する。